

慢性乳腺炎の診断と治療

中年の婦人に繰り返して見られる乳輪下の慢性化膿性炎症を乳輪下膿瘍と言います。乳輪下に膿瘍を形成し自然に排膿したり、切開して治癒するように見えますが、瘻孔となって排膿が続くなど慢性に再発を繰り返す難治性の疾患でもあります。症状は乳輪下に疼痛のある結節葉変化が生じ、発赤を伴い、さらに膨隆して膿瘍を形成します。自潰し、あるいは切開していったん治癒するように見えますが、ある期間を得て再び発赤、膿瘍形成と再発を繰り返すことがあります。

診断:

本症の診断は画像診断や起炎菌の証明などによってされるものではなく、乳輪下の化膿性疾患が慢性的に繰り返して再燃する病態を示すものをいいます。

治療:

抗生剤投与や切開排膿だけで治癒することは少なく、いったんはよくなりますが再燃することが多いです。したがって、本症例に対する治療として、いったん排膿させた後に膿瘍の完全切除に加えて病的乳管を切除する方法がとられることが多いです。しかしながら、それでも再燃する可能性もあり、十分に患者さんに説明し、経過をみていくことも重要です。